

## 第2回みやぎ観光振興会議大崎圏域会議 概要

### 委員からの主な意見

- ①観光・宿泊施設，鉄道，バス等の消毒・フィジカルディスタンスの取組みとして，他県ではまだ実施していない県保健所からの衛生指導を，定期的なモニタリングを含めてお願いしたい。
- ②①の指導を遵守している施設等には県から証明書を発行してもらうことはどうか。
- ③①について，他県よりも安全・安心な取組だということを広くPRしてもらいたい。
- ④全国的に見れば本県はまだ感染者数が少ないことをもっと周知すべきであり，当面は比較的感染者数が少ない東北6県（新潟県を含めて7県とすることも可）の観光客誘致を，重点的に行うべきである。
- ⑤観光地の土産物店の経営は厳しい状況にあり，支援策として，県で土産物を購入し，各種表彰の際の記念品等と一緒に授与する制度をつくってもらいたい。
- ⑥現在の厳しい状況を乗り越えるための施策も大事だが，感染症が収束した後を見据えた観光振興施策の検討も必要である。
- ⑦大崎圏域の観光地と仙台空港を直通で繋ぐ高速バスの運行を認めてもらいたい。
- ⑧地元の方々が取組むお祭り・イベント等に助成してもらいたい。
- ⑨通常，大都市で行われている国際会議等を地方都市で行う誘致活動を行ってはどうか。
- ⑩少人数のハイキング等を積極的に展開してはどうか（オルレを含む）。また，観光客が道に迷わないよう道案内地図に展開できるQRコードを表示した看板を設置してはどうか。
- ⑪海外では台湾がコロナから収束されたようなので，台湾に向けた観光PRは続けた方がよい。
- ⑫観光事業者への支援制度が多様にあるので，県から情報を配信してもらうと助かる。
- ⑬観光地及び宿泊施設等において，従業員及び観光客の具合が悪くなった場合に備え，医療機関との連携がとれる体制整備が必要である。